＜こんにちは「長岡京市長」＞

市政は、足元の課題と将来的なまちづくりの両面で

小田　豊 氏（長岡京市長）
木村幹雄 氏（京都自治総研副理事長・連合京都会長）
司会／谷口富士夫 氏（京都自治総研専務理事・自治労京都府本部書記長）

谷口　今日は、お忙しいところを有り難うございます。今年の 7 月 25 日に、京都自治総研と自治労京都府本部で開催した「自治研集会」に、長岡京市の職員の方から、西山の森林保全に関するレポートを発表していただいたこともあり、環境問題に熱心に取り組んでおられる長岡京市長にお話をお聞きしようと、やってきました。

西山は市民の貴重な財産

小田　今年の夏は厳しい暑さでした。体温以上に温度が上がるとしんどいですね。異常気象の傾向が顕著になり、雨が降れば豪雨になって被害が出る。私は長岡京市に生まれ育ちましたから、夕方になると西山を眺めます。西山が霞んでくると翌日は雨です。

今は、電気もガスも整備されて生活様式は一変しましたが、昔の燃料は薪でしたから、西山の間伐材を薪にして 3 度の食事をいただきました。小さい木は燃やす時に、大きい木は割ってと、自然循環型の社会でした。しかし、その西山には 50 年間、入る人がいなくなって、木が伸び放題です。そうなると太陽があたらない。太陽があたらないと落ち葉も栄養にならず溜まってしまう。かなり溜まると地下水にも影響が出てきます。山が荒廃する。そこで西山の掃除をしたいと取り組み始めました。

長岡京市の 40 %を占める西山は、長岡京市民の貴重な財産です。ところが西山は、ほとんど民有地なんです。最初、どう取り組もうか悩みましたが、3 年ほど前に、京都府や企業の方々、地権者や市民の皆様方の協力で「西山森林整備推進協議会」ができました。発端はサントリーから 1500 万円の寄付をいただいたことです。この資金をもとに、退職した団塊の世代など市民ボランティアや環境団体ともネットワー

クを結び、協議会を発足しました。この取り組みは、京都モデルフォレスト運動のモデルとも言える活動であり、京都府豊かな緑を守る条例の森林利用重点地域の第１号に指定されました。

木村　西山の地権者の方の協力は、どうやって得ることができたのですか。

小田　山林は農地解放がなかったので、昔の地主からそれほど変わっていません。あのあたりならあの地主と、だいたい目星がついたので、口頭で「山を掃除させてや、かまへんな」「おお、頼みます」というような調子で、了解をもらいました。

12 月末から 3 月にかけて、美山や近隣の森林組合の方に、山の手入れに来てもらっています。4 年ほど前に、当時の美山町長と話をしていたところ、北山杉が暴落し、作業をする人が少なくなったうえ、冬になると雪が降って仕事にならないとのことでした。それなら冬場に来てもらおうかということで、間伐を頼んでいます。同時に、市民ボランティアも掃除をしていただいており、3 年間で 800ha のうち 120ha の整備ができました。

木村　小学生を対象とした西山ファミリー環境探検隊や、森の中コンサートなど、子どもたちの育成も含めた多彩な取り組みを進められていますね。何かにつけて費用対効果が重視される世の中ですが、こうした事業は、別の面で長岡京市のブランド力を高めることになりますね。

谷口　環境政策としては、他にもいろいろ取り組まれているようですが。

小田　市では、2004 年に「緑の基本計画」を策定しました。中心市街地は「緑の千本計画」として、例えば１年間に 1000 本植える。10 年で１万本になります。昨年は、ごみの発生抑制と資源の循環利用を推進する循環型社会を実現するために、15 年間を計画期間とした「一般廃棄物処理基本計画」も立てました。さらに、総合的な環境まちづくりビジョンを示した「長岡京市環境基本計画」や、市の事務事業や事業に関して温室効果ガスの排出の削減をめざした「地球温暖化防止実行計画」も策定しています。

こうした取り組みは、行政だけがやるのではなく、市民も一緒に取り組んでネットワークが広がっています。

「環境」と言っても、行政内部では建設も農林も関係があるので、今年の 4 月には「環境政策監」を置いて、庁内で横断的に取り組んでいくことにしました。実は、本年 7 月に「環境モデル都市」に長岡京市も手を上げたんですが、これはだめでした。当面は、来年 3 月に「環境都市宣言」をする予定です。引き続き、環境に対して市民の皆さん方に関心を持っていただこうと思っています。

木村　里山は日本人の心の故郷みたいなものですからね。長岡京市は「筍」の産地として有名ですが、竹林整備はどうされているのですか。

小田　筍の収穫は 4、5 月の 2 カ月間だけで、農家の１年間の生活を支えるだけの収入を得ることは難しい。農家は稲刈りが終わると藁を竹林に置いて、その上に土を被せる。筍は空気に触れると真っ黒になって固くなるので、そうやっておくと、ふっくらした白い筍ができます。

現在、農家は後継者が不足し、高齢化しています。代が変わればどうしても荒廃する。そうした竹林を、行政が農家とボランティアの仲介を行って、市民に手入れをしてもらっています。企業の OB に入っていただいているのも、そういった民有地です。手入れして、筍も掘っています。

谷口　そうした事業は、何年ぐらいの計画で考えておられるのですか。

小田　当面は 10 年です。ただ、事業には林道や作業道の整備等も含めて、多い年で年間約

6000 万円が必要です。全額、税金を使うことはできないので、国や京都府からの補助金や交付金、そしてサントリーなどの企業から寄付をいただいています。税金からは、長岡京市の一般会計の 0.1％くらいを、環境対策に費やしています。

木村　1 つの事業がきっかけとなって、いろいろなところから知恵や協力が得られて、市の活力につながりますね。

小田　需要があると、竹林は守られます。需要を喚起することが必要ですね。企業の元エンジニアの方は、青年海外協力隊に応募して東南アジアの竹を研究してくると言って、この間、カンボジアに行かれました。

子どもを育てやすい環境づくり

谷口　子育て支援としては、構造改革特区に応募されて、それまでの入園年齢より小さい子どもも入れるような制度を試みられましたが、これはどういったきっかけで始められたのですか。

小田　少子化対策には、子どもを育てやすい環境づくりが必要です。家庭で若いお母さんと小さな子どもがにらめっこしていては、お母さんも子どももストレスがたまります。子どもたち同士が喧嘩しながらでも遊べて、親は井戸端会議ができるような居場所づくりが必要だと考えました。

「構造改革特区」で認められたのは、幼児が満 2 歳になった翌年度の、学年の初めから入園できる制度です。昨年度、特区計画が全国展開されることになり、今年度から 3 歳未満児は、個別のかかわりに重点をおいた子育て支援として受け入れることになりました。

子育てに手助けが必要なときは、ファミリーサポートセンターに行っていただきます。また、共働きで今日は 8 時まで残業する。土、日に仕事が入った。親の介護に行かなければならない。というような、一般の公立保育所では対応できない多様なニーズに応えるため、JR 長岡京駅西口のバンビオ 1 番館に「駅前保育所」を設置しました。夜は 10 時頃まで、土・日曜も開けています。駅前ですから、交通も買物も便利です。

さらに、今年の 9 月からは、済生会病院で「病後児保育」も行っています。病気は治ったがまだ体調がおもわしくない。微熱がある。という時に預けてもらえます。保育士と看護師がいて、子どもの体調が悪くなったらすぐに、小児科の先生に診てもらえます。子育て上の不安を解消する仕組みに、これでやっとメドがついたところです。

木村　わが家も共働きですが、子育てしている頃には、そうした制度はありませんでした。小さい子どもはよく熱などを出しますから、病後保育は大変、助かりますね。1 日にどのくらい利用されますか。緊急でも利用できるのですか。

小田　利用は、1 日 4 人くらい。平均では 2 人ほどです。事前に登録は必要ですが。

実は 2 年半ほど前に、長岡京市で乳児の児童虐待がありました。民生委員や児童委員が対応していたのですが、児童相談所は限界があって家庭に踏み込めなかった。その反省から、虐待防止ネットワークとして対策会議をつくりました。毎月、専門家も交えて会議をしています。こういう虐待事件が起こり非常に残念な思いです。なんとか事前に対応できるようにしたいと考えています。

木村　京都府もすぐ補正予算を組んで、対応が早かったですね。ただ現場からは、なかなか難しいという声が聞こえてきます。制度上の問題をそのままにしておくとなかなか解決しないですから、ネットワークをつくって絶えず、互いに情報交換して、切磋琢磨しながら仕事を進め

ていくことは、重要ですね。

小田　子育て支援の一環として、各中学校単位に 1 カ所、「地域子育て支援センター」もしくは「つどいの広場」をつくりました。「子育てはみんなの手で」をスローガンに、講演会やリズム体操、ピザづくりなど、毎月メニューをつくって展開しています。

木村　少子高齢化というけれど、高齢化は行政の責任ではない。むしろ長寿を支えているとして誇れることだと思いますが、少子化は行政の取り組みが必要な分野です。安心して子どもを生み育てられる環境づくりは、行政として重要な仕事ですね。

今、「ワーク・ライフ・バランス」が国民的な課題として浮上し、各方面で積極的に論議されています。連合としても「だれもが安心して働き続けることが可能になり、だれもが仕事と生活の調和が選択可能になる社会」をめざして取り組んでいるところです。安心して子どもを生み育てられる社会的基盤づくりとともに、多様な働き方を可能とする社会の仕組みを、国としても取り組んでほしいと考えています。

第二外環で地元住民とまちづくり

谷口　全国各地で、都市開発や地域社会の活性化などを目的にした「「まちづくり」を条例化する自治体が多くなっています。内容は、自治体行政への市民参加を規定するもの、景観を規制しようとするもの、地区計画作りを支援するもの、開発許可の際に周辺住民が関与できるようにするものなどさまざまですが、長岡京市でも「まちづくり条例」を策定されていますね。この条例の内容はどういったものですか。

小田　長岡京市では、たとえば開発が進んだ地域に高層マンションが建設される場合、そうした地域では隣人とのトラブルが発生することがあります。まちづくり条例によって、たとえば建築紛争が生じた場合、建築士、設計士、弁護士などで構成した委員会において対応しています。条例の趣旨はそういうことですが、基本的理念は、自分たちの地域の問題は自分たちで解決するということです。そのため、条例の中に「市長は、市民による住環境の向上を目指すことを目的に組織された団体を、まちづくり協議会として認定することができる」という項目をいれました。下海印寺地区ではすでに発足しています。

下海印寺まちづくり協議会は、第二外環の計画が持ち上がった時に、地域住民同士で話し合いをもたれたことがきっかけで、作られました。今では、地域の川の清掃や地区のまちづくりも議論しておられます。第二外環は当初、議会も地元住民も絶対反対でした。村が分断される、先祖から守ってきた家を立ち退かなければならないと、反対の声が強かった。しかし最終的には、集団移転先を地区住民自らが区画整理事業で確保されました。

木村　亀岡や南丹市から京都や大阪に行くには、今は 9 号線で京都市内に入るしかないため、京都市内に入るあたりから渋滞します。第二外環は、途中で分岐し、車を長岡京市の方へ向かわせようとする道路です。完成はいつ頃ですか。

小田　目目標は 2012 年です。現在、本市内の用地の約 90 %で買収が完了しました。

インターチェンジの場所に、阪急の新駅ができます。インターチェンジと新駅が併設していところは全国でも珍しい。京都大学の公共交通の専門家と雑談しているとき、「インターチェンジで車を置いて、鉄道に乗り換えたら梅田や京都市内に行ける。面白いんじゃないですか」と言われたのが発端です。パーク・アンド・ライド。海外に行く人のために高速バスに乗れるようにすると、鉄道と車とバスの結節点ができる。それによって長岡京市も活性化すると考えています。

谷口　計画どおりに進めようとすると、パーク・アンド・ライドの駐車場や駅前広場、駐輪場など、多くの用地が必要ですが、用地確保の

見通しはできているのですか。

小田　阪急と JR と第二外環の高架下を使うため、用地代はゼロですみました。長岡京市が用地を買うなら、できなかったでしょうね。

　高架下を使用できるようにするには、国との折衝などなかななか大変でした。沿線住民に呼びかけてワークショップを開き、環境や緑化対策、交流の場づくりなど、一緒に考えました。国などにそれを評価してもらって、最後に「地元のためになるなら」と許可がおりました。駅前広場をつくるのに邪魔になっていた橋脚は、広場が分断されないように工夫し、料金所横の管理棟は平屋を 2 階建てにして整理してもらいました。

木村　高速道路は、迷惑施設ではなく、まちの発展のために、地元で協議会をつくって話し合いをもち、まちづくりに向けて活用するという、なかなか積極的な取り組みがあったわけですね。

小田　長い道のりでしたが、やっと最後の大詰めの説明会までたどりつき、11 月 11 日には起工式を迎えます。

木村　周辺の商業施設はどういう計画をもっておられますか。

小田　周辺にはまだ農地が残っています。所有者がどのように活用されるかは今後の課題ですが、インターチェンジの周辺にはよく、好ましくないホテルが乱立します。それは避けたいと考えて、ラブホテル建築規制条例を策定しました。さらに、新しい道路と駅は、環境に優しいものを目指します。そこで、道路の照明や、阪急電鉄のプラットホームに、太陽光エネルギーを使うことを提案しています。道路の防音壁やプラットホームを壁面緑化するなど、環境面における新しい技術で対策をして欲しいと交渉しています。

活性化した JR 長岡京駅前

木村　JR 長岡京駅前もずいぶん変わりましたね。東口は企業の本社が移転し、西口はバンビオという総合施設もできていて、その変貌ぶりに大変、驚きました。

ＪＲ長岡京駅西口に建てられた総合型施設
「バンビオ」

小田　西口には約 240 戸のマンションや約 400 台収容できる駐車場をつくりました。当初は、長岡京市にはそんな体力がないと、議会からもずいぶん批判を受けました。今年で 2 年半がたち、めどがついてホッとしています。住宅は、近鉄不動産に販売してもらったら、即、完売でした。駐車場は去年で約 8300 万円の収益を生んでいます。駐車場の最上階には大阪ガスのフィットネスクラブ、1 階は平和堂が入っています。平和堂の売上は 4 億円を達成しました。周辺の個人商店も採算がとれているようです。

無駄を省いて市民サービスを向上

谷口　2004 年度に策定された「新長岡京市行財政改革大綱」が、今年で 5 年目を迎えますが、進捗状況はいかがですか。

小田　行財政改革については、この 10 月 15 日号の市民新聞に掲載しました。無駄を省いて市民サービスを向上することを基本に、事務事業の洗い直しも含めて、5 年間で 50 億円ほど削減しました。

谷口　職員数の削減計画は、定年退職者と新規採用でバランスを保つということですか。

小田　私が市長になってからは、財政が厳しいからといって新規採用をしなかった年はありません。定期的に 15 ～ 20 人は確保しています。

退職者が 30 人でも 20 人採用。退職者がいない年でも採用しています。

谷口　若手職員を確保して、人材育成をしっかりしていかないと、組織は成り立っていかないですね。

木村　2003 年の改正地方自治法の施行により、地方自治体の「公の施設」の管理運営に指定管理者制度が導入されることになりました。これまで、委託先が市の出資法人や公共的団体等に限定されていた施設の管理運営について、民間事業者も含めた幅広い団体に委ねることが可能となったわけですが、制度の狙いが運営費用と職員数の削減にあることから、行政改革の面だけが過剰に着目され、問題も生まれています。長岡京市では、どのように取り組まれていますか。

小田　JR 長岡京駅西口に生涯学習、市民活動、教育、福祉支援等の総合型施設である総合交流センター、いわゆるバンビオ一番館を新設した時、他市に先駆けて指定管理者制度を導入しました。他の公の施設についても、公の施設管理運営調整会議等を通じて、施設ごとに直営がいいのか、指定管理者制度が馴染むのかを検討しています。

　現在、導入しているのは 13 施設で、その中の「神足ふれあい町家」は、NPO 法人乙訓障害者事業協会が指定管理者になっています。ここは、長岡京市が町家を取得して改修したもので、喫茶コーナーもあり、和室は市民の皆様に貸し出しています。総合交流センター内にあるオープンラウンジ「エポカ」も、障がい者の就労支援の場として、同じ NPO 法人乙訓障害者事業協会が指定管理者となっています。

今後の市政への思い

谷口　最後に、今後の市政への思いをお話ください。

小田　足元の課題を解決することと、ちょっと先を見てまちづくり全体を計画していく、その両面が必要ではないかと思っています。足元の課題を考えるキーワードは、環境・健康・安全。環境は先程お話しました。健康は、高齢者がいつまでも元気で過ごしていただくことや、これからの日本、長岡京市を背負う子どもたちの健康です。安全は、防犯行動計画を立てることと、防災対策です。地震対策では、ライフラインや食糧の確保が必要です。市では、地下水を使用した非常用のボトル備蓄水を作っています。ペットボトルの方が軽いのですが、賞味期限が短いのでアルミを使用しています。倉庫に保管し、5 年目には防災訓練時に無料で配っています。

　長岡京市には 56 の自治会がありますが、そのうち 43 に自主防災組織が立ち上がってきました。地域住民で地域を守っていただくために、少しずつ積み重ねていきたいと思っています。

　長岡京市民の平均年齢は、現在は 44 ～ 45 歳ですが、昔は 32 歳でした。そのため保育所、小学校、図書館、体育館、グラウンドと、子育てに追われていました。それも一段落しましたので、これからは遅れてる分野を整備していきたい。一挙にはいきませんが、計画的に、明日の長岡京市に向けて、将来を見据えたまちづくりをしていきたいと考えています。

木村　里山から第二外環まで、たくさんのお話を聞かせていただき、有り難うございました。希望に満ちた長岡京市のために、これからもどうぞよろしくお願いします。